

日常診療で使える VBM(価値に基づく医療)の指南書

『《ジェネラリスト BOOKS》

外来でよく診る

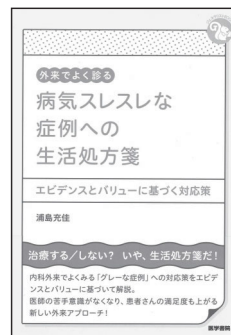
病気ストレスな症例への生活処方箋

エビデンスとバリューに基づく対応策』

浦島充佳(著)

評者：今村英仁 公益財団法人慈愛会理事長

● A5/頁 212/2018 年
定価：本体 3,600 円＋税
[ISBN978-4-260-03593-4]
医学書院 刊



「Value-based Medicine (VBM) とは何か?」この本を手にとった方はまずこの疑問を持たれることだろう。そもそも著者は、EBM(科学的根拠に基づく医学)の大家であり、「いかにしてエビデンスを作り、利用するか」を著した書籍や、その基本となる臨床統計学の教科書など、多数の EBM 関連著書を出版している。

一見、エビデンス(科学的根拠)とバリュー(価値観)では正反対の概念のように思われる。とうとう EBM に愛想を尽かして VBM に寝返ったのかなと言うと然にあらす。この本を読むと VBM はしっかりした EBM の基盤の上に成立することがよくわかる。「治療」の際には EBM が大きな力を発揮する。「予防」の際もエビデ

ンスはしっかりと蓄積されてきている。ただ、「馬を水辺に連れていくことはできても、水を飲ませることはできない」。エビデンスを振りかざしてもなかなか実行してもらえないのが予防の世界である。そこで出てくるのが VBM である。

この著書は、How to make Value から How to use Value まで VBM とは何かを理解し、さらに実行するための教科書にして実用書である。筆者自身の体験を踏まえているのでより説得力が高い。後は、ぜひ本書を読み下してやさしく「水を飲んでもらう」ようにしていただきたい。